

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
教育方法論	講義	2	林幹士・田中麻紀子・園田雪恵
【授業のテーマ及び到達目標】			
<p>これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することが、この授業のテーマである。授業の到達目標は、次の3点である。①教育方法の基礎的理論と実践を理解している。②主体的・対話的で深い学びの実現ができる教育方法の在り方を理解している。③保育評価の基本的な考え方を理解している。</p>			
【授業の概要】			
<ol style="list-style-type: none"> レジュメを用いながら、各回のテーマを中心に講義を行う。 林、田中、園田の3名の教員がリレーで講義を行う。 			
【全体の授業計画・内容】			
1. 幼児教育の改訂の背景について			
2. 今後の幼児教育の方向性について			
3. あそびの理論			
4. 実践事例検討(子どもの主体性を育む)			
5. 実践事例検討(ICTを保育・教育実践に用いること)			
6. 指導案の作成方法			
7. 作成した指導案を実践にいかす方法			
8. 絵本を用いた保育の方法			
9. 子どもに伝わる言葉がけの方法			
10. 実践に生かすための指導法のレポート作成			
11. 食育を意識した指導法の検討—咀嚼の援助・箸の持ち方指導—			
12. 道徳性の芽生えを育むための指導法の検討			
13. 保育における評価方法の検討—幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から—			
14. 幼児教育から小学校教育へつなぐための指導法の検討			
15. 保育指導法のレポート作成			
【準備学習の内容】			
<p>予習のあり方: ニュースや新聞などの子どもに関する記事に関心を示し、幅広く情報を得ておくこと。児童館や子育て支援サークルなどの保育ボランティアなどたくさんの経験を積極的に積むこと。</p> <p>学習のあり方: 保育者は子どもの育ちに責任があるということ、保育者である自分の言動が子どもに対し、多大な影響があるということを自覚すること。その上で、子ども自身が育っていくことに自分がどのように関わっていくことができるのか、子どもにとってよりよい保育とは何かについて普段から考えておくこと。</p> <p>復習のあり方: 授業内容についての疑問点を整理し、ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解いてみること。疑問や質問は必ずその時に解決する習慣を身につける。</p>			
【成績評価】			
各教員が課すワーク(20%)・指導案(20%)・レポート課題(60%)で総合的に判断する。			
【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】 授業で配布するコメントシートに授業に対する疑問点や質問を記入し、次回の授業にて解説することによりフィードバックを行う。			
【テキスト】 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館			
【参考文献】			
授業時に適宜指示する。			